

- \* プログラム TTL オートストロボで撮影できる最短距離は、レンズの開放絞り値が F4.5 より暗いレンズを使用しても約 0.7m と一定になります。
- \* 0.7m より近距離で撮影すると、ストロボ光のムラやケラレおよび露出がオーバーとなる場合がありますのでご注意ください。

### ご使用上の注意

#### レンズが不適切な場合の警告表示

下記の F および F A レンズを使用すると、充電が完了してからシャッターボタンを半押しすると表示パネルの  やファインダー内の  が点滅して警告します。

- ・ レンズの焦点距離が 35mm 未満の場合
- ・ レンズの焦点距離が 300mm 以上の場合 (F A ズーム 100~300mm の 300mm を除く)
- ・ マクロレンズの場合

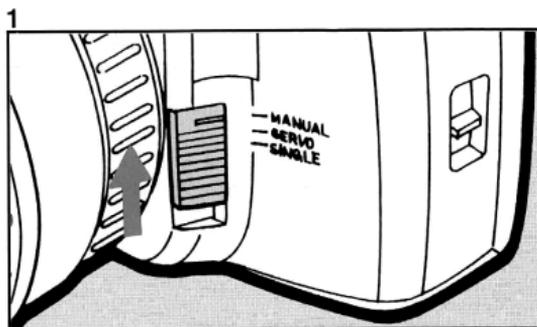
上記の範囲内 (35~300mm) でも一部の F・F A レンズでは警告が出ることがあります。

警告が出た状態で撮影すると、画面の四隅が暗くなるケラレが出たり、画面下部に半円形のケラレが出たりしますのでご注意ください。F・F A レンズ以外を使用した場合は警告表示がされませんから特にご注意ください。

- \* レンズフードは、ストロボの光路を遮ることがありますので使わないでください。
- \* F ズーム 24~50mm レンズの場合、焦点距離が 28~35mm の間では警告が出ますがご使用いただけます。
- \* F A ズーム 28~105mm レンズの場合、焦点距離が約 35~40mm では警告は出ませんが、ケラレが発生することがありますので 1m 以上の距離で撮影してください。
- \* F A 28~70mm レンズでは、全範囲でケラレが発生します。
- \* F A 80~200mm レンズは、焦点距離を 135mm 以上にすれば使用できます。

## Ⅲ 応用的な使い方

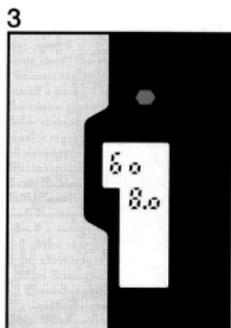
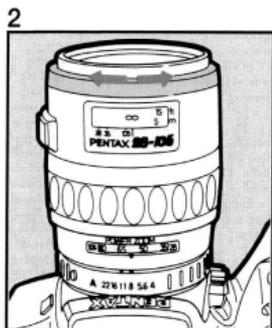
### (1) 手動によるピント合わせ



マニュアルフォーカスレンズを使う場合  
従来の K A や K マウントレンズで、開放 F 値が F5.6 以上の明るいレンズ (F1.2~5.6) を使うと、ファインダー内の合焦表示  を利用した手動ピント合わせができます。

使い方

1. フォーカスモードレバーを **MANUAL** にセットします。



2. ファインダーを覗きながらシャッターボタンを半押しした状態で、レンズの距離リングを左右に回してください。
3. ピントが合うとファインダー内の合焦表示  が点灯して知らせます。そのままシャッターボタンを押し切って撮影してください。

- \* ピントが合うと、ファインダー内の合焦表示  の点灯と同時に「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- \* KAFおよびKAF2マウントレンズを使用しても、フォーカスモードレバーを **MANUAL** にセットすると同じ操作になります。

\* 旧タイプのねじ込み取り付け式レンズを別売りの「マウントアダプターK」で取り付けても、ファインダー内の合焦表示  によるピント合わせはできません。

### スナップインフォーカス撮影について

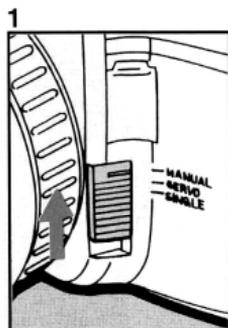
KAおよびKマウントレンズを使用して、フォーカスモードレバーを **SINGLE** にセットすると、別売りのケーブルスイッチFを利用してピントが合ったときに自動的にシャッターが切れるスナップインフォーカス撮影ができます。

1. レンズはKAおよびKマウントレンズを使用します。
2. フォーカスモードレバーを **SINGLE** にセットします。
3. 写したいものが通りそうな位置にピントを合わせます。
4. ケーブルスイッチFを使って、シャッターボタンを押し切った状態にします。
5. 写したいものがピントを合わせた位置に来ると、自動的に撮影されます。

### オートフォーカスが使えない場合

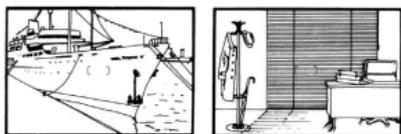
以下の理由で、オートフォーカスやファインダー内の合焦表示  が使えない場合は、ファインダーのマット面を利用して手動でピント合わせをしてください。

- a) 「オートフォーカスの苦手な被写体」で合焦表示  が点滅するとき。
- b) 開放F値がF5.6より暗いレンズを使っているとき。
- c) ベローズ100mm F4、シフト28mm F3.5(シフト状態)、レフレックスタイプのレンズを使用したとき。
- d) 旧タイプのねじ込み取り付け式レンズを別売りの「マウントアダプターK」で取り付けて使用したとき。



### 使い方

1. フォーカスモードレバーを **MANUAL** にセットします。
2. ファインダーを覗きながら、レンズの距離リングを左右に回してファインダー内の映像が最もはっきり見えるようにピントを合わせ、撮影してください。



オートフォーカス機構はきわめて高精度のものです  
が、万能ではありません。被写体の明るさ・コントラスト・形状・大きさなどによって、ピントが合わない場合があります。ファインダー内の合焦表示  を利用してピント合わせを行なう手動ピント合わせも同様です。そんなときは、被写体とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロックをしたり、フォーカスモードレバーを **MANUAL** にセットして、従来の一眼レフカメラと同様にファインダーのマット面を利用して手動ピント合わせを行なってください。

- a) A F フレーム  に白い壁などの極端にコントラスト(明暗差)の低い被写体がある場合。
- b) A F フレーム  に光を反射しにくい被写体がある場合。
- c) 非常に速い速度で移動している被写体。
- d) A F フレーム  に横線のみ被写体や細かな模様の被写体がある場合。
- e) 遠近のものが A F フレーム  の中で同時に存在する場合。
- f) 反射の強い光、強い逆光(周辺が特に明るい被写体)。

### アクセサリーの注意

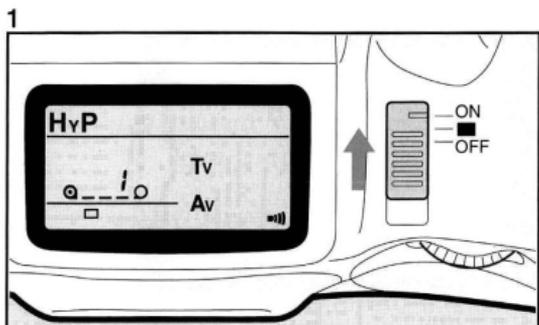
以下の条件では、オートフォーカスやファインダー内の合焦表示  を利用した手動ピント合わせができません。ファインダー内のマット面で手動ピント合わせをしてください。

- a) 特殊なフィルターや「マジックイメージアタッチメント」・「ステレオアダプター」などを使った場合。
- b) オートフォーカス機構の一部にハーフミラーを使用していますので、一般の偏光フィルターを使うとオートフォーカスの精度が低下します。オートフォーカスで使用するときには円偏光フィルターをご利用ください。
- c) 「接写リング」や「オートベローズ」を使った拡大接写撮影の場合。

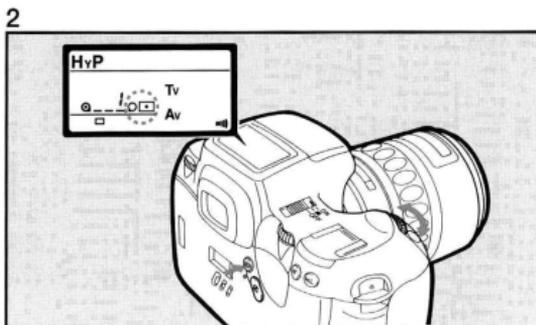
### SMCペンタックスFソフト85mm F2.8使用時の注意

約1.5mより近距離の撮影をするときは、レンズの絞りをF2.8~4.5でご使用ください。これより小絞り(F5.6~32)にすると、カメラのオートフォーカス(FIも同様)が誤合焦することがあります。F5.6以上の絞riを使う場合には、一旦レンズの絞りをF4.5に合わせてピント合わせを行ない、フォーカスロックをしたまま希望の絞りに戻して撮影してください。

1.5m以上の撮影では、問題なく使えます。



Z-5は、撮影者の好みで測光モードを分割測光からスポット測光に切り替えることができます。スポット測光は被写体の限られた部分だけに露出を合わせたいときなどにご利用ください。

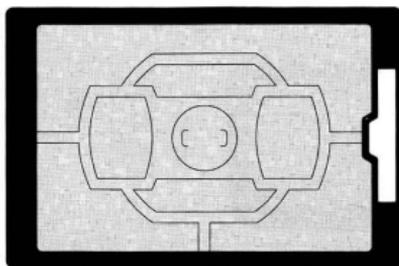


### 切り替え方法

1. 電源スイッチを **ON** にします。
2. 測光モード切り替えボタン  を押しながら Tv ダイレクトダイヤルを回すと分割測光とスポット測光を交互に切り替えることができます。

\* Tv ダイレクトダイヤルを回し、表示パネルに  が出ていれば、スポット測光、出ていなければ分割測光です。シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にも  が表示されます。

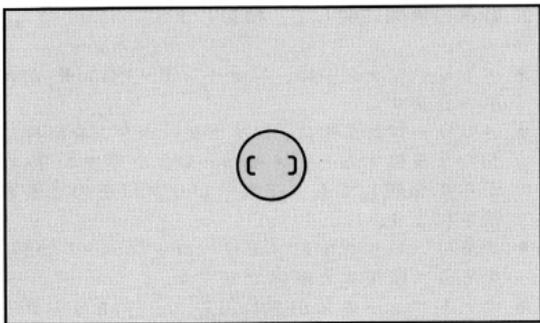
- \* 電源スイッチがグリーンポジション  では、測光モードは分割測光になり測光モードの切り替えはできません。
- \* レンズ情報接点のないAレンズより前のレンズを使用したときは、分割測光は使用できませんので、中央重点測光かスポット測光をご利用ください。表示パネルに  (ファインダー内は ) が表示されていればスポット測光です。電源スイッチがグリーンポジション  では、中央重点測光だけとなります。
- \* Aレンズ50mmF1.2の場合、絞りA位置以外では分割測光になりません。また、絞りA位置では、露出が約2EVオーバーになることがありますので、絞りをA位置以外にするか露出補正(マイナス補正)をご利用ください。
- \* 測光モードの切り替えを分割とスポットから分割と中央重点に変更することができます。変更はサービス窓口にご用命ください。(有料)



### 8分割測光について

Z-5は、高精度のTTL8分割測光モードが採用されています。図のように画面の中を分割して測光を行ない、様々な光の条件下で最適な露出を得ることができます。

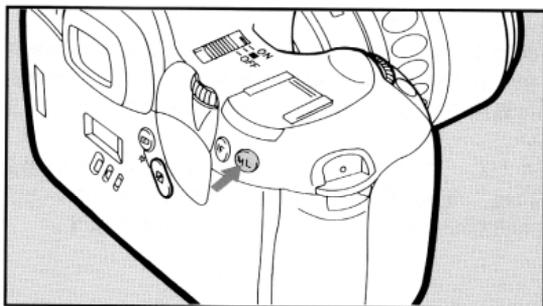
例えば、従来の平均測光方式では逆光の人物撮影のときなどに、背景の明るい部分が全体の露出に影響を与えるため、写したい人物がどうしても暗くなってしまう。これに対して分割測光では、画面のどの部分にどんな明るさのものがあるのかカメラが判断し、そのまま撮影しても人物が暗くならないように露出を決定します。その他、逆光以外の明暗差がある条件下でも画面を分割して露出値を計算し、自動的に露出補正をしますから、初心者の方でも安心して撮影を楽しんでいただけます。



## スポット測光について

図のように、ファインダー中央部にある丸の内側の限られた範囲だけで露出を測りますので、この部分に露出を合わせたい被写体を入れて撮影してください。

ただし、この部分と他の部分の明暗差が大きい場合には、全体の明るさを考慮して露出を決めないと、不自然な写真になってしまうことがあります。



## メモリーロックについて

メモリーロックは、撮影前の露出をカメラに記憶させるもので、スポット測光と組み合わせて使用すると便利です。

被写体が非常に小さく、適正露出を得るのが難しい状態のときなどにお使いください。

1. 露出を合わせたい物がスポット測光の範囲いっぱいに入るようにして、メモリーロックボタン **ML** を押します。

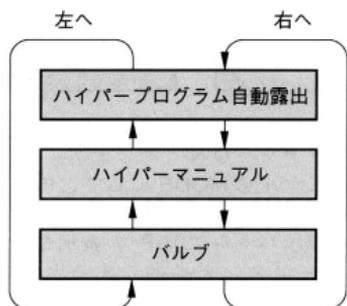
\* メモリーロックボタン **ML** を押すと10秒間タイマーが働き、露出が記憶されます。

2. 好みの構図に戻して、撮影します。

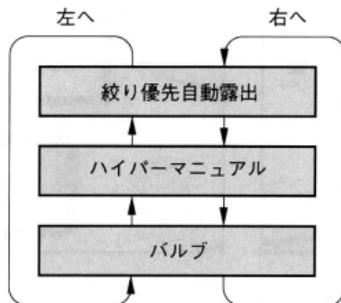
- \* メモリーロック中は、ファインダー内に **\*** が表示されます。
- \* メモリーロック中に、シャッターボタンを半押ししたままにすると、メモリーロックボタン **ML** から指を離してもメモリーロックはそのまま継続されます。
- \* メモリーロック中にメモリーロックボタン **ML** をもう一度押すと解除できます。
- \* オートフォーカスが **SINGLE** で、メモリーロックボタン **ML** を押したとき、オートフォーカスが作動するように変更できます。変更はサービス窓口にご用命ください。(有料)

電源スイッチが **ON** (フルスペックポジション) では図のように露出モードを矢印の順で変更することができます。それぞれの露出モードについては、各ページの説明をご覧ください。

## 絞りがA位置の場合

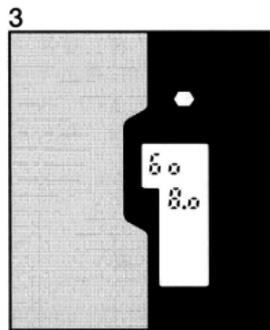
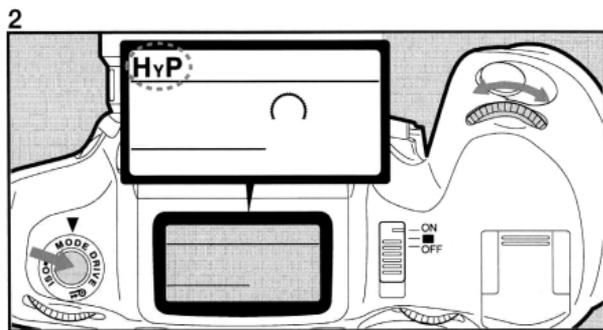
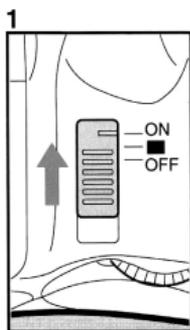


## 絞りがA位置以外の場合



以下の場合には、絞りをA位置から外してご使用ください。なお、Aレンズより前のレンズ(Aポジションのないレンズ)を使用する場合も同様の扱いになります。

- ・プレビューボタンにより被写界深度を確認する場合。
- ・接写リングなど、絞りの連動がきかないアクセサリを使用した場合。
- ・旧タイプのストロボで、絞りがA位置で使えないもの。



### 1) ハイパープログラム自動露出の使い方

ハイパープログラム自動露出は、プログラム自動露出(22ページ参照)でありながら、ワンタッチでシャッター速度優先自動露出や、絞り優先自動露出に切り替えられるモードです。

絞りをA位置にします。

1. 電源スイッチを **ON** にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **HyP** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と絞りが表示されます。

シャッター速度を変えたい場合

Tvダイレクトダイヤルを回すと、即座にシャッター優先自動露出に切り替わります。

- \* シャッター速度は、絞り値が連動する範囲内では設定できません。
- \* 明るさが変わり、絞り値が連動範囲外になったときは、自動的にシャッター速度がシフトし、表示パネルの $\square$ とファインダー内のシャッター速度表示の下の横棒が点滅します。
- \* **I/F** ボタンを押すと、ハイパープログラム自動露出に戻ります。

#### ※露出警告

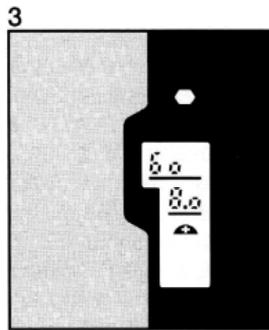
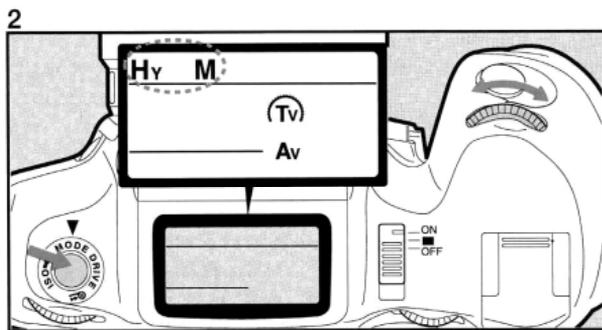
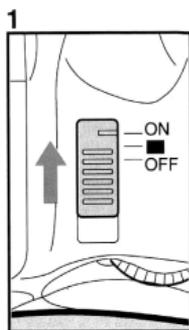
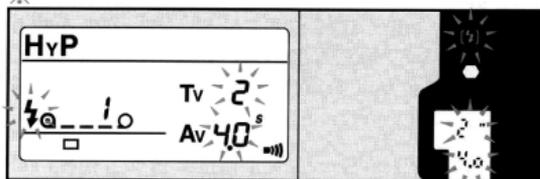
被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルの表示が点滅して警告します。明るすぎるときは、NDフィルターなどをご利用ください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

絞りを換えたい場合

Aダイレクトダイヤルを回すと、即座に絞り優先自動露出に切り替わります。(52ページ参照)

- \* 絞り値は、シャッター速度が連動する範囲内では設定できません。
- \* 明るさが変わり、シャッター速度が連動範囲外になったときは、自動的に絞り値がシフトし、表示パネルの $\square$ とファインダー内の絞り値表示の下の横棒が点滅します。
- \* **I/F** ボタンを押すと、ハイパープログラム自動露出に戻ります。

※



#### 2) ハイパーマニュアル露出の使い方

シャッターボタンを半押しすると、露出計が働きます。露出計の指示に従って、シャッター速度や絞りを調節すれば、適正露出が得られますが、撮影者の作画意図に合わせた露出で撮影することもできます。

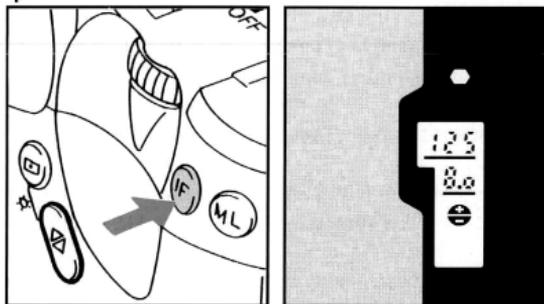
Z-5のハイパーマニュアルには、ボタン操作一つで瞬時に適正露出が得られる便利な機能があります。

絞りをA位置にした場合

1. 電源スイッチを **ON** にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **HyM** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度、絞り値と $\square$ あるいは $\square$ が表示されます。

- \* 表示パネルの $\square$ と $\square$ およびファインダー内のシャッター速度と絞り表示の下の横棒は、TvダイレクトダイヤルとAvダイレクトダイヤルによって、シャッター速度と絞り値が変更可能であることを表しています。

4



4. **IF** ボタンを押すと、シャッター速度と絞り値が自動的に切り替わり、即座に適正露出が得られます。

- \* ファインダー内に が表示されます。その後、A v ダイレクトダイヤルで絞りを、T v ダイレクトダイヤルでシャッター速度を変えれば、好みの露出値で撮影することができます。

- \* **IF** ボタンを押したままシャッターボタンを押すと、明るさが変化しても常に適正露出が得られるように、シャッター速度と絞り値が変化しますので、プログラム自動露出と同じ使い方ができます。
- \* の点灯は+1EV以内の露出オーバー、 の点灯は-1EV以内の露出アンダーです。それ以上のオーバー、アンダーのときは あるいは が点滅します。
- \* 被写体が明るすぎたり暗すぎて、測光範囲外になったときは、ファインダー内と表示パネルのシャッター速度と絞り値表示の両方が点滅します。NDフィルター(明るい場合)やストロボ(暗い場合)などをご利用ください。

50

### メモリーロックとの組み合わせ

絞りがA位置のハイパーマニュアルのとき、メモリーロックボタン **ML** を押して、露出値を記憶させることができます。(44ページメモリーロック参照)この状態で、T v ダイレクトダイヤルを回してシャッター速度を変えるとそれに応じて絞り値が、逆にA v ダイレクトダイヤルを回すとそれに応じてシャッター速度が変化し、同じ露出値を保ちます。

### 使用方法

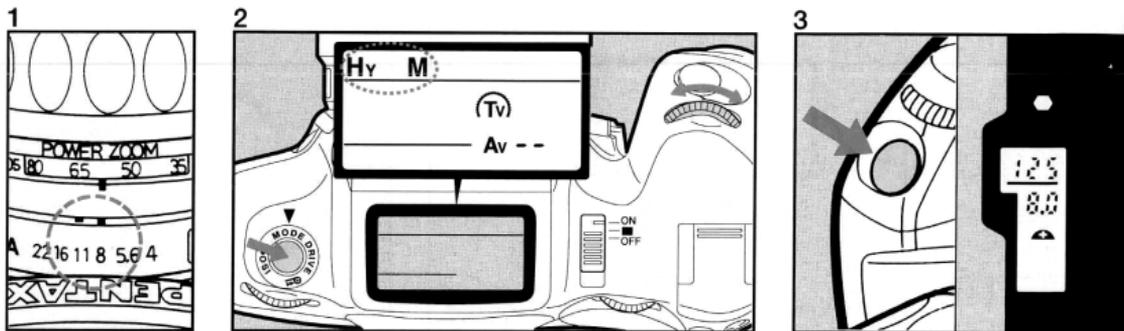
1. 絞りをA位置にする。
2. 露出モードをハイパーマニュアルにする。
3. メモリーロックボタン **ML** を押して露出値を記憶させる。
4. T v ダイレクトダイヤルでシャッター速度を、A v ダイレクトダイヤルで絞り値を変化させます。

### (例)

シャッター速度が1/125秒、絞り値がF8でメモリーロックを行なった場合。

- ・ T v ダイレクトダイヤルでシャッター速度を1/250秒にすると自動的に絞り値はF5.6に変わります。
- ・ T v ダイレクトダイヤルでシャッター速度を1/60秒にすると自動的に絞り値はF11に変わります。
- ・ A v ダイレクトダイヤルで絞り値をF5.6にすると自動的にシャッター速度は1/250秒に変わります。
- ・ A v ダイレクトダイヤルで絞り値をF11にすると自動的にシャッター速度は1/60秒に変わります。

このように、メモリーロック後にシャッター速度や絞り値を変化させても、常に同じ露出値を保ちます。

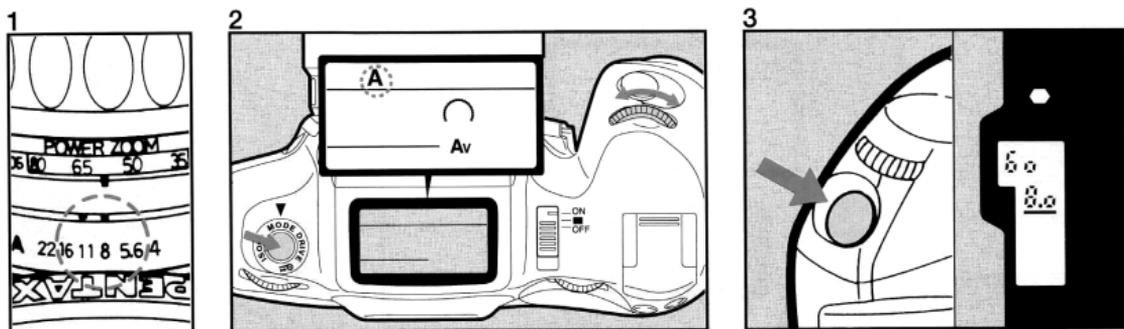


絞りをA位置以外にした場合

1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
  2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **Hy M** の表示を出します。
  3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルに設定絞りの目安およびシャッター速度が表示されます。ファインダー内には、あるいはも表示されます。絞りリングで絞りを、Tvダイレクトダイヤルでシャッター速度を変えます。
- \* 露出の合わせ方と露出警告は、絞りがA位置の場合と同じですが、**I F** ボタンを押すとシャッ

ター速度だけが切り替わります。(48ページ参照)

- \* F A および F 以外のレンズ使用の場合は、表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安は表示されません
- \* **I F** ボタンを押したままシャッターボタンを押すと、シャッター速度が明るさによって変化しますので、絞り優先自動露出と同じ使い方ができます。
- \* プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。プレビューボタンを押したまま露出を合わせると、正しい露出が得られません。



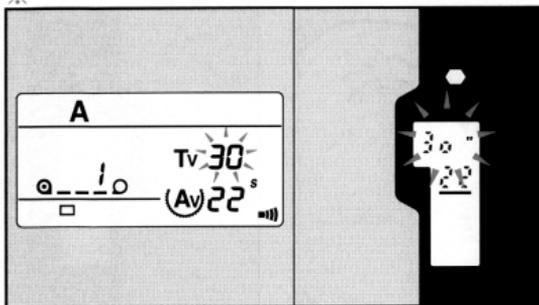
### 3) 絞り優先自動露出の使い方

希望の絞りを合わせると、被写体の明るさに応じてシャッター速度が自動的に変わって適正露出が得られます。ピントの合う範囲を広くしたい風景写真や、背景をぼかしたい人物の撮影などに適しています。

1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **A** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルに絞り値の目安とシャッター速度が表示されます。

- \* F A および F 以外のレンズ使用の場合は、表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安は表示されません
- \* 電源スイッチがグリーンポジションで、絞りをA位置以外にした場合もこのモードになります。
- \* プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。なお、プレビューボタンを押したままシャッターを切ると、正しい露出が得られません。

※

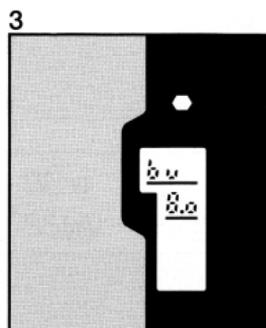
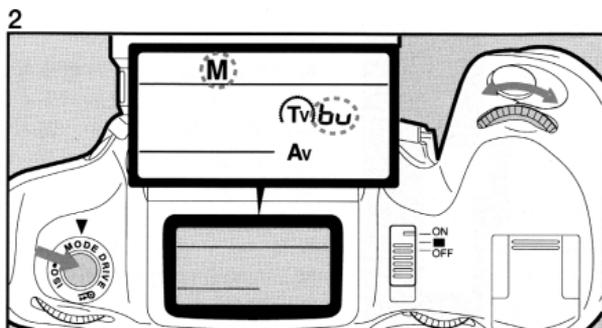
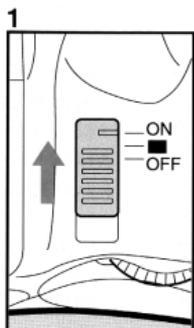


## ※露出警告

被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルのシャッター速度表示が点滅して警告します。明るすぎるときは絞りを小絞り側(数字の大きい方)に、暗すぎるときは絞りを開放側(数字の小さい方)にして点滅が止まれば撮影できます。

なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外です。NDフィルター(明るい場合)やストロボ(暗い場合)などをご利用ください。

54



## 4) バルブの使い方

花火、夜景などの撮影で長時間シャッターを開いておく必要のあるときにご利用ください。シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。

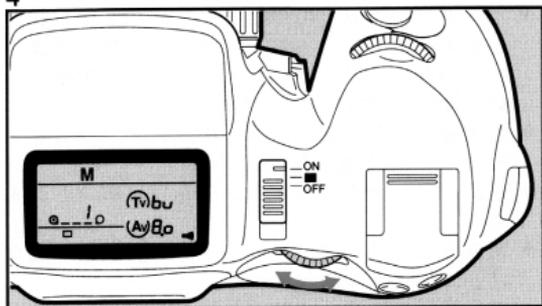
- \* 新品のリチウム電池(常温)で、約6時間の長時間露出ができます。
- \* シャッターボタンを押している間、表示パネルの右上に露出時間の目安が表示されます。

## 絞りA位置の場合

1. 電源スイッチを **ON** にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに**M**と**bu**の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に**bu**と絞り値が表示されます。

- \* 表示パネルの **bu** およびファインダー内の絞り表示の下の横棒は、Avダイレクトダイヤルによって絞り値が変更可能であることを表わしています。

4



4. Avダイレクトダイヤルで絞りを選びます。

絞りをA位置以外にした場合

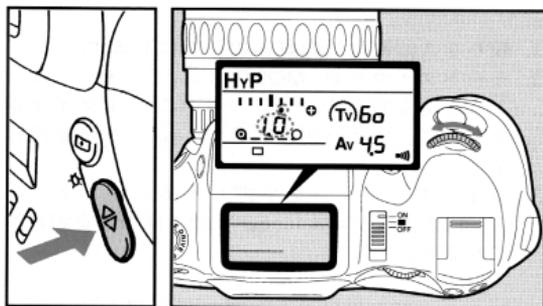
1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **M** と **bu** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルに **bu** と絞り値の目安が表示されます。

- \* F AおよびF以外のレンズ使用の場合は、表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安は表示されません
- \* プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。
- \* バルブで撮影するときは、しっかりした三脚を使用し、別売りの「ケーブルスイッチF」をリリースソケットキャップFDを外してからリリースソケットに差し込んでご利用ください。

応用的な使い方

56

## (5) 露出補正について



意図的に露出オーバー（明るい写真）や露出アンダー（暗い写真）にしたいときに露出を補正するために使います。

セット方法

露出補正ボタン  を押したままTvダイレクトダイヤルを回して希望の補正值を選びます。

\* 補正は-4 ~ +4 EVの範囲で0.5EVごとに行えます。

- \* バググラフの黒丸の移動量1つが0.5EVに相当します。ただし、-3 ~ +3EVを越えて設定した場合は、表示パネルのバググラフの  あるいは  が点滅して知らせます。
- \* 露出補正中は、表示パネルのバググラフとファインダー内の  が表示されます。
- \* 電源スイッチを切っても露出補正は解除されません。
- \* 電源スイッチがグリーンポジション  の場合は、露出補正は働きません。
- \* 露出補正のステップを0.5EVから0.3EVに変更することができます。変更はサービス窓口にご用命ください。（有料）

応用的な使い方